

【お詫び】編集ミスで、6月号に予定していた山中先生の巻頭言を5月号に載せて印刷してしまいました。本来5月号の巻頭言は、斉藤先生にお願いし、原稿も頂いておりました。内容的に次号に差し替えるべきでなかったため、刷り直しも検討しましたが、①関連性のあるテーマで、同時に掲載する価値があること、②刷り直しに伴う廃棄処分は、資源の無駄になること、等を考慮し、編集者の判断で本来の原稿を特別編集として掲載させていただきました。震災前にお願ひした斉藤先生には、その後被災されて大変な中で執筆いただいた原稿を、このようなかたちで紹介することになり深くお詫び申し上げます。

「わが岩」なる神

浦安聖約キリスト教会牧師 斉藤 潔

3月11日午後2時46分。東日本を襲った大地震は、それに伴う大津波によって一瞬にして多くの人命と暮らしを打倒し、飲み込んでしまいました。その被害のあまりの甚大さに言葉を失い、ぼう然とさせられます。

私の住んでいる浦安市はその市域の多くが埋立地で、この度の地震によって引き起こされた液状化現象によって多くの被害がありました。電柱は傾き、上下水道やガス配管がずたずたになり、多くの家が傾いてしまいました。私が牧会している浦安聖約キリスト教会の周辺は最も液状化の激しい地域で、道路は1メートルも隆起し、大量の土砂が堆積し、会堂は長辺方向に27センチも傾いてしまいました。

傾いたのはいわゆる戸建住宅で、高層マンションではありませんでした。高層マンションは地中深く岩盤に杭を立てて基礎を据えましたが、戸建住宅は地面に基礎を据えたからです。マタイ7章24節から27節に記された、岩の上に建てた家と砂の上に建てた家のイエス様のたとえ話そのものです。

しかし、そのような中であつてもはっきりと言えることは、詩篇62篇1、2節にある通り「私は決して、揺るがされない」し、「私の救いは神から来る」ということです。なぜなら「神こそ、わが岩、わが救い、わがやぐら」だからです。「私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む」のです。主は私たちに何を教えようとしておられるのだろうか、私たちに何をしようとしておられるのだろうか。主のみこころを求め、導きを待ち望むのです。

この度の震災で日本の置かれた状況は一変しました。これからの日本の歩む道は非常に厳しいものとなるでしょう。そのような時にも、決して変わることはない愛と真実をもって守り導いてくださる神がおられることを知っていることの幸いを思います。と同時に、そのような方を知らず、不安と恐れの中にある多くの人のことを思います。「ライフ・ライン」がそのような人々に、揺れ動くことのない岩である方をお伝えするためにますます用いられるものとなるように、共々に祈り、また支えて参りましょう。

お茶の間に福音！

毎週土曜朝7時は、**千葉テレビ「ライフ・ライン」**でお楽しみ下さい。